

5 - 1 2 東海地方におけるラドン観測 (XVII)

Radon Observation in the Tokai District (XVII)

東京大学大学院理学系研究科

Graduate School of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾ に引き続き、東海地方における地下水のラドン濃度の連続観測結果 (1998 年 11 月 ~ 2000 年 5 月) を報告する。

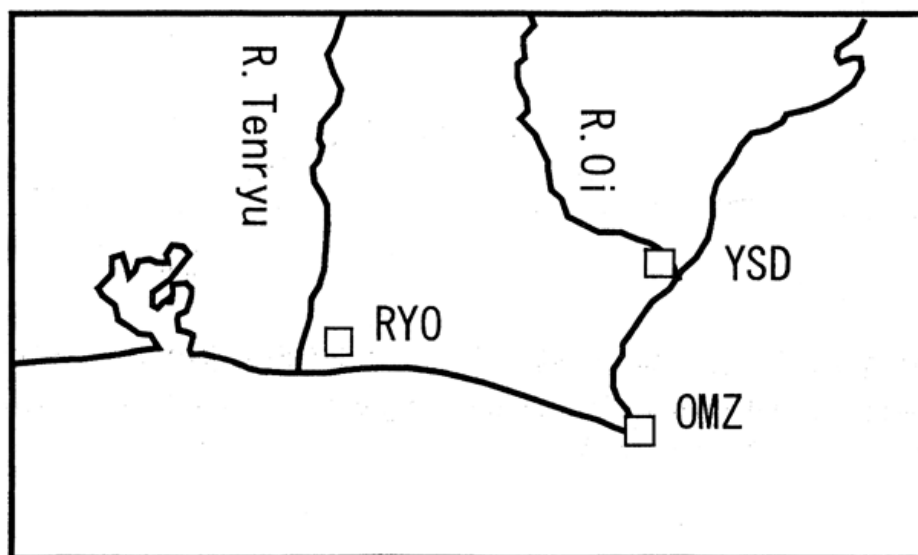
観測点は第 1 図に示す竜洋 (RYO), 吉田 (YSD), 御前崎 (OMZ) の 3 地点である。第 2 図は、RYO, YSD, OMZ における、1 時間毎のラドン濃度 (積算値) の 24 点移動平均の変動で、縦軸はこの期間の変動を表している。また、各図の右上には、1996 年以降のラドン濃度の観測値を示してある。

RYO, YSD では 1 週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響であると解釈される。また、YSD 観測点ではラドン濃度が大きく変動しているが、これは観測点の近くで行われている建築工事の影響を受けていると考えられる。

OMZ では大きな年周変動が見られる。これは主に、降雨によるゆっくりとしたレスポンスであると考えられる。

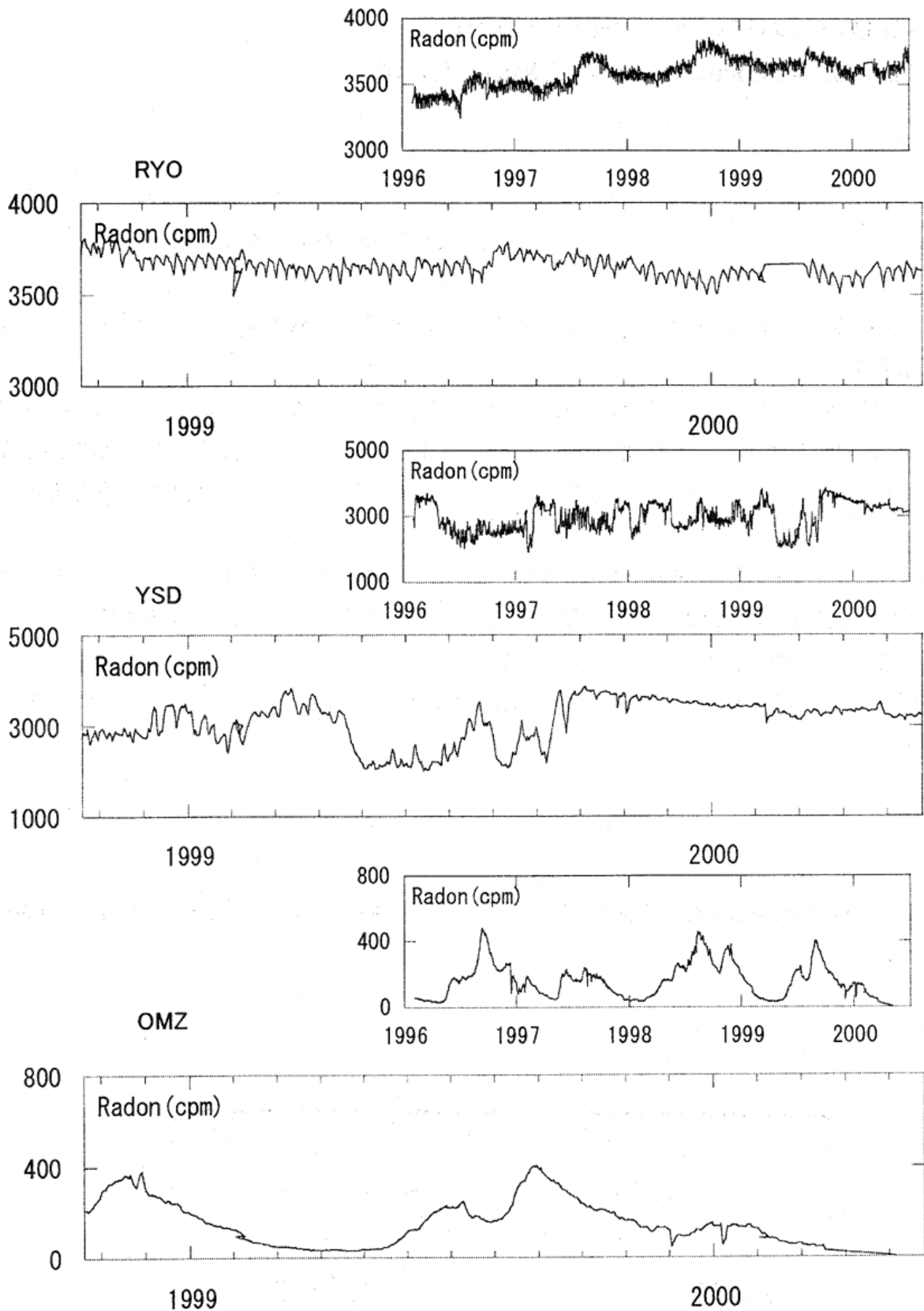
参 考 文 献

- 1) 東京大学大学院理学系研究科：東海地方におけるラドン観測 (XVI), 連絡会報, 61 (1999), 358-359 .



第 1 図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district.



第 2 図 RYO (竜洋) YSD (吉田) OMZ (御前崎) における地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in ground water at RYO(Ryuyo), YSD(Yoshida), and OMZ(Omaezaki). The data are 24-hour moving average values.